

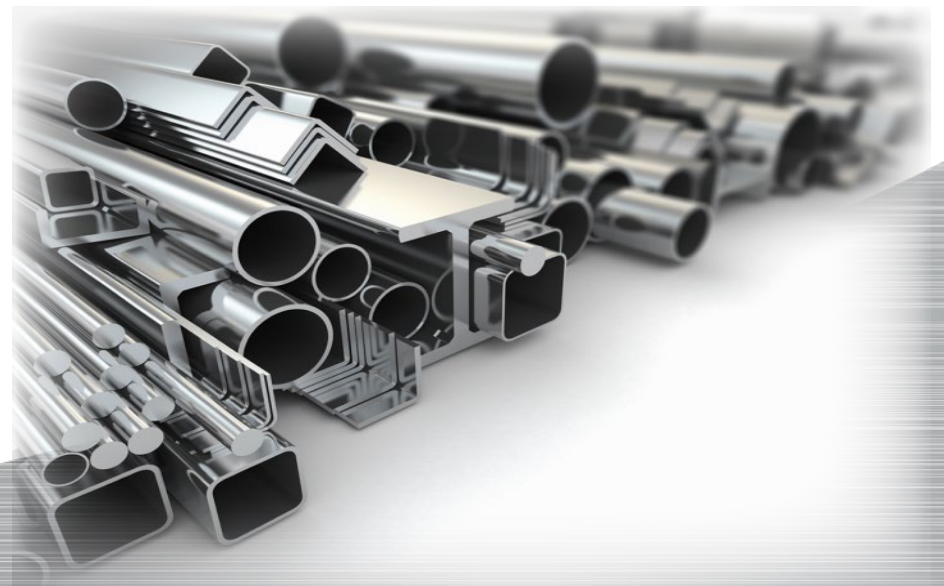


2021.6.24

福証IRフェア説明資料

小野建株式会社

証券コード 7414



CONTENTS

I 会社概要

II 小野建の強み I ～積極的な販売エリア拡大とシェア向上～

III 小野建の強み II ～工事請負事業の拡大～

IV 設備投資による強みの増強 ～中長期に向けての成長戦略～

V 2022年3月期の見通し・株主還元・株価指標について

本資料および将来の見通しに関する注意事項

本資料は事業内容等に関する情報提供を目的としており、当社株式への投資を推奨するものではありません。また、資料に記載されている内容につきましては、種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。

CONTENTS

I 会社概要

II 小野建の強み I ～積極的な販売エリア拡大とシェア向上～

III 小野建の強み II ～工事請負事業の拡大～

IV 設備投資による強みの増強 ～中長期に向けての成長戦略～

V 2022年3月期の見通し・株主還元・株価指標について

会社概要

商号

小野建株式会社

設立

1949年8月

代表者

小野 建

資本金

42億9,980万円

連結売上高

2,028億2,500万円

従業員

796 人(連結)

上場取引所

東京①・福岡(7414)

本社

福岡県北九州市

業種

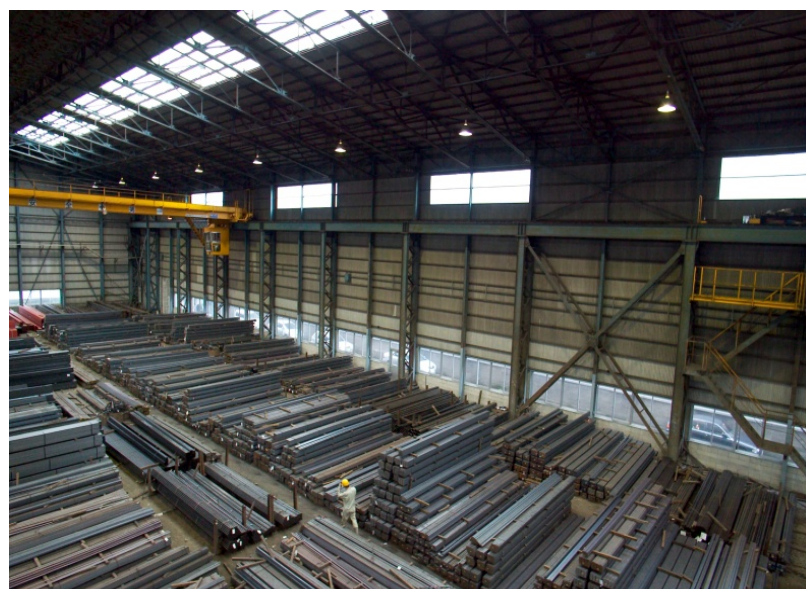
鉄鋼・建材流通商社

主な事業内容

鉄鋼商品の販売・加工
土木建築材料の販売
土木建築工事の請負



小野建株式会社 本社・小倉支店

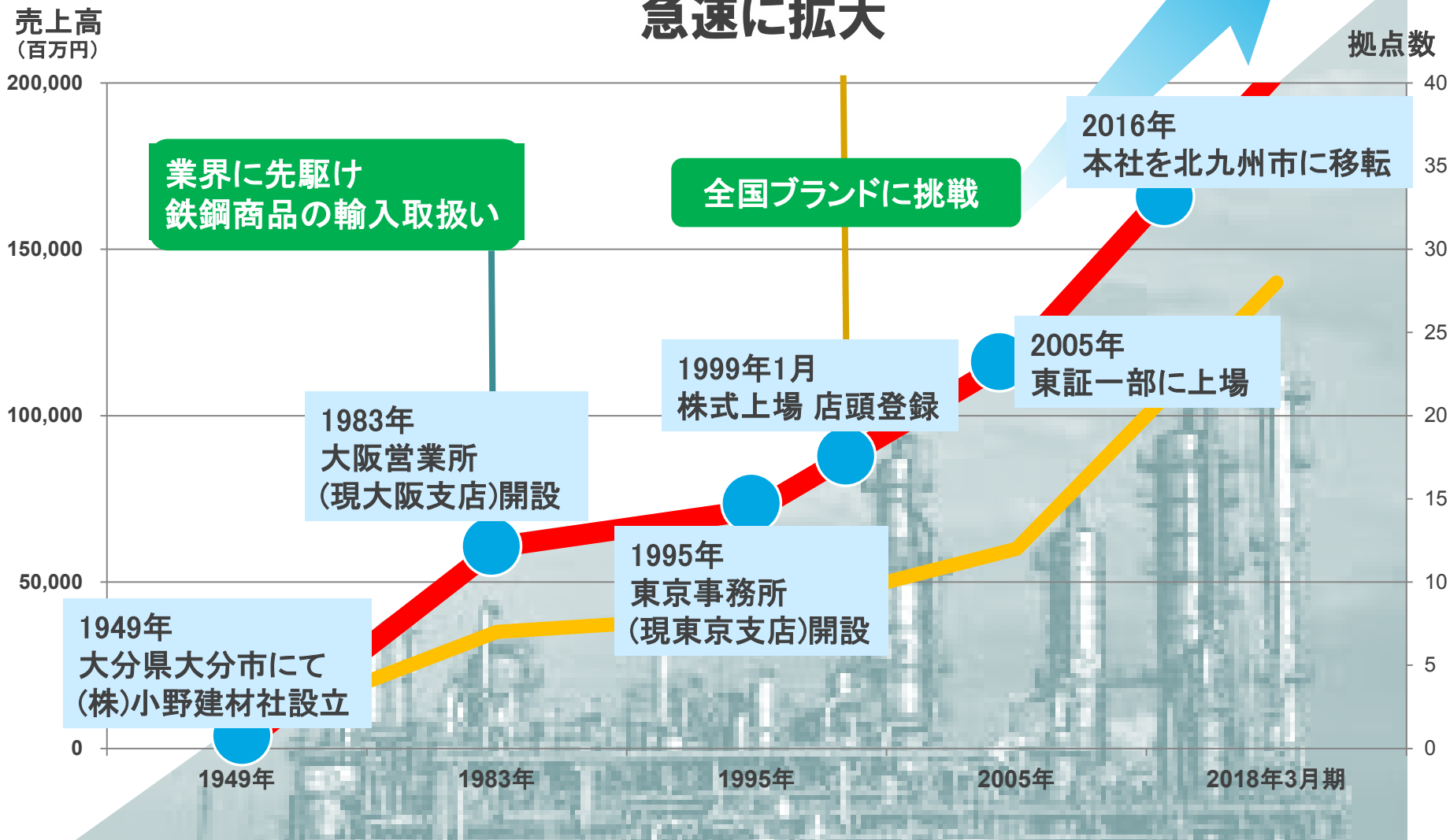


小倉支店 倉庫内

小野建の歩み

拠点数
上場後の拠点数12拠点から28拠点と
急速に拡大

積極的な
店舗展開



営業拠点はグループ全体で全国に32ヶ所

北は青森県から南は沖縄県まで

連結売上高2,028億円
(2021年3月期実績)

東京
仙台
八戸

売上高382億円
(2021年3月期実績)

3拠点

関東・東北
エリア

大阪
名古屋
京都
姫路
神戸
四国(愛媛)
北陸(石川)
新居浜(愛媛)
丸亀(香川)
南大阪
三重
滋賀
他子会社2拠点

売上高421億円
(2021年3月期実績)

14拠点

関西・中京
エリア

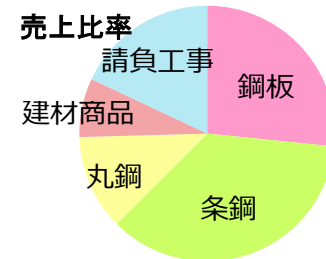
売上高1,224億円
(2021年3月期実績)

15拠点

九州・中国
エリア

大分
小倉
福岡
長崎
宮崎
鹿児島
熊本
広島
福山
山口
久留米
岡山
佐世保
他子会社2拠点

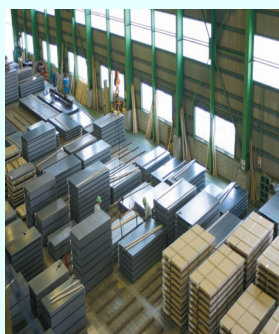
取扱い品種



鉄鋼商品

鋼板

鉄を板状にしたもの
工事現場の敷板等に用いられる



条鋼

型鋼とも呼ばれ、色々な形に
成形したもの
建物の骨組等に用いられる



丸鋼

鉄を丸い棒状にしたもの
建物の基礎等に用いられる



建材商品

土木・建築工事に
使用される材料
鋼矢板・屋根・
フェンス・サッシ等
写真はフェンス、
鋼矢板



工事請負

鉄骨工事
屋根工事
外壁工事
サッシ工事
杭工事 など



鉄の使用例

鋼板

- ・工事現場の敷板
- ・車、船、プラント、製缶など



条鋼

- ・建物の骨組
- ・橋など



丸鋼

- ・建物の基礎
- ・マンションなど建物本体



福岡での納入実績



九州大学 伊都キャンパス(鉄骨工事)

福岡での納入実績



フォルツァ博多 筑紫口(鉄骨工事)

福岡での納入実績



福岡脳神経外科(外壁工事・杭工事)

福岡での納入実績



イオン筑紫野(外壁工事・鉄骨工事)

CONTENTS

I 会社概要

II 小野建の強み I ～積極的な販売エリア拡大とシェア向上～

III 小野建の強み II ～工事請負事業の拡大～

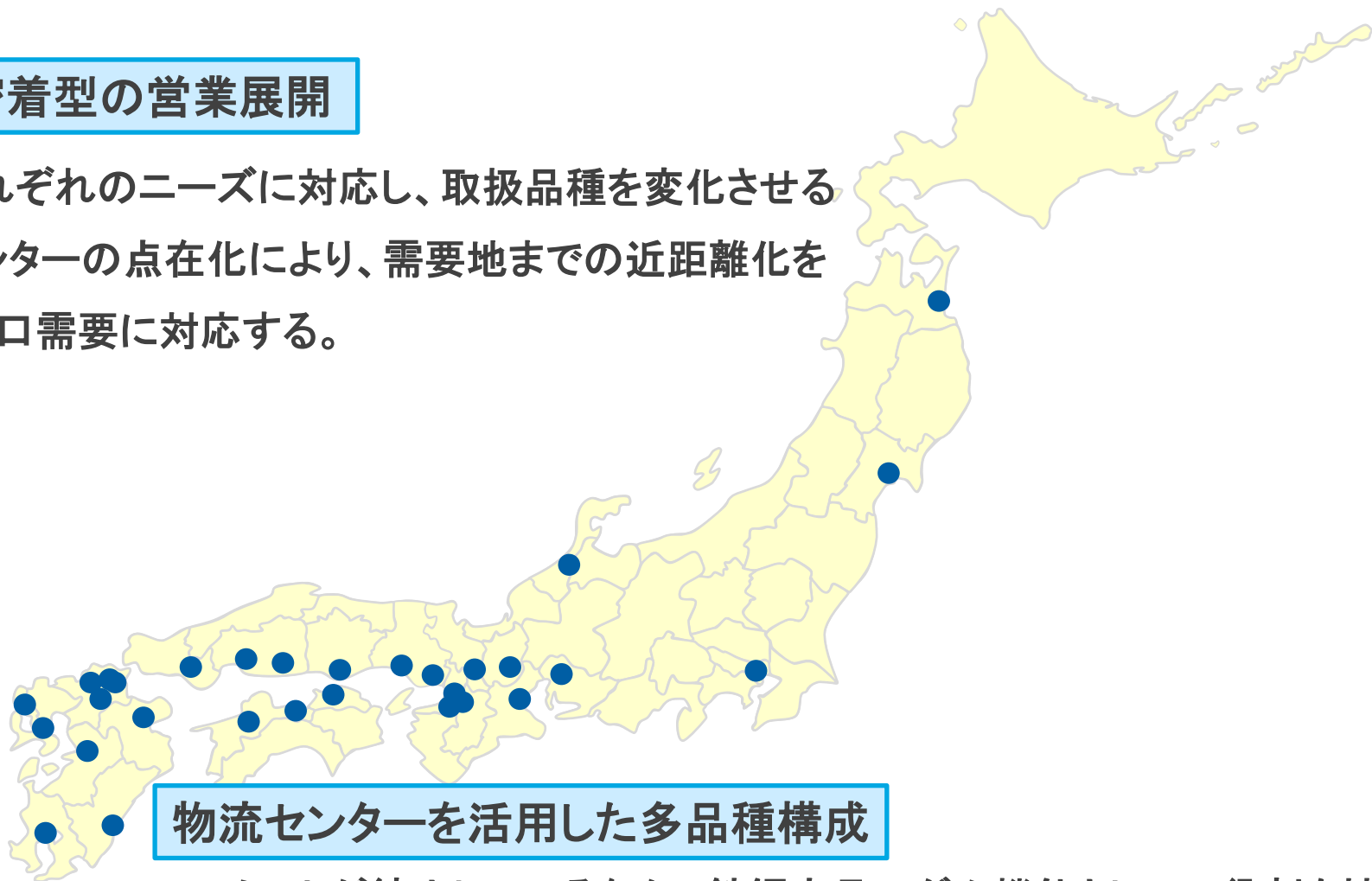
IV 設備投資による強みの増強 ～中長期に向けての成長戦略～

V 2022年3月期の見通し・株主還元・株価指標について

積極的な事業展開による販売エリアの拡大とシェアの向上

地域密着型の営業展開

各地それぞれのニーズに対応し、取扱品種を変化させる
物流センターの点在化により、需要地までの近距離化を
図り、小口需要に対応する。



物流センターを活用した多品種構成

マーケットが縮小しているなか、鉄鋼商品のダム機能としての役割を拡充し、
ユーザー直結の川下戦略を徹底することで販売先数を拡大している。
鉄鋼流通業界において、豊富な在庫を持って商売できることは大きな強み。

当社所有の物流センター



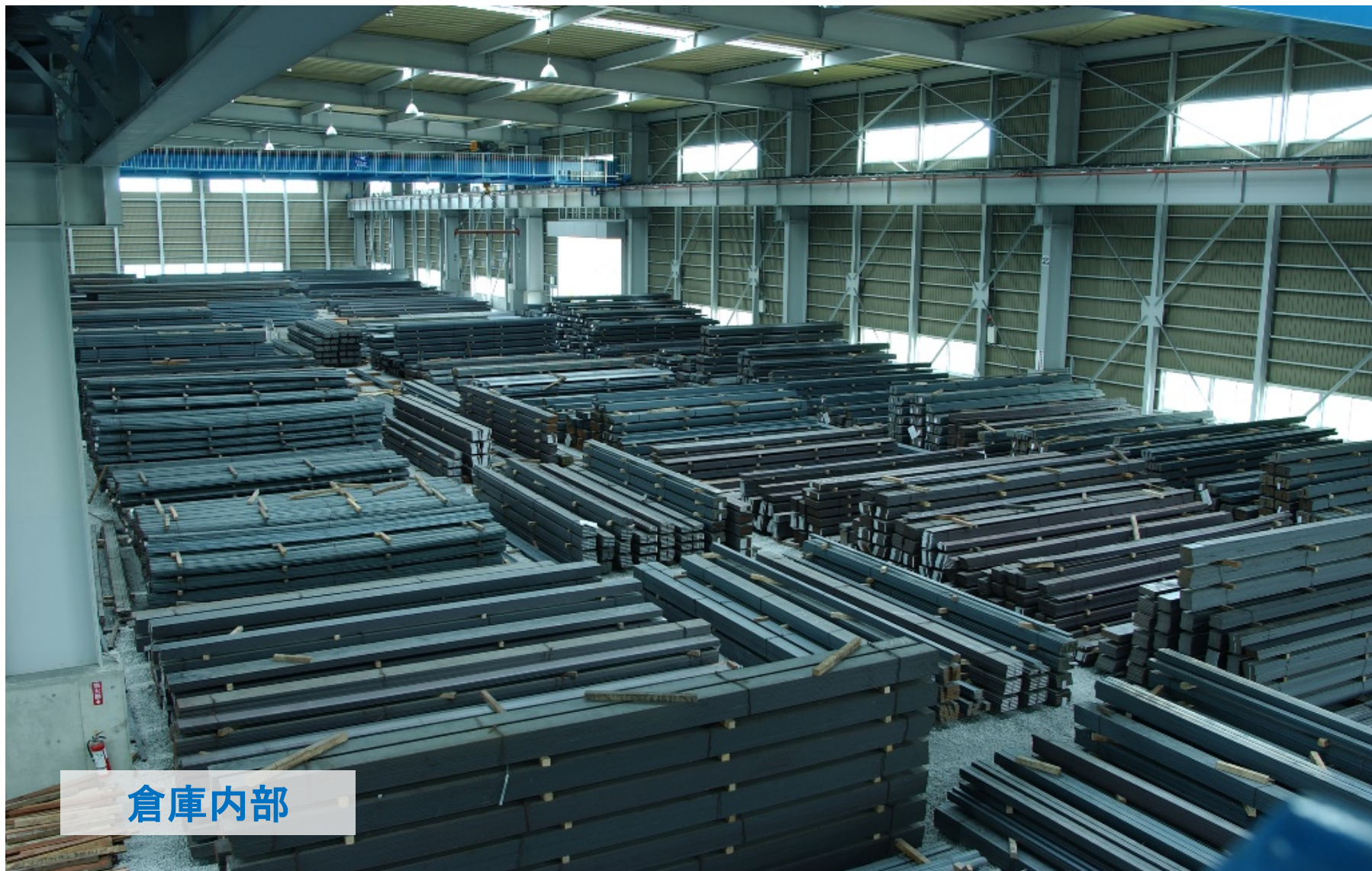
福岡支店

当社所有の物流センター



東京支店川崎センター

当社所有の物流センター



倉庫内部

当社所有の物流センター



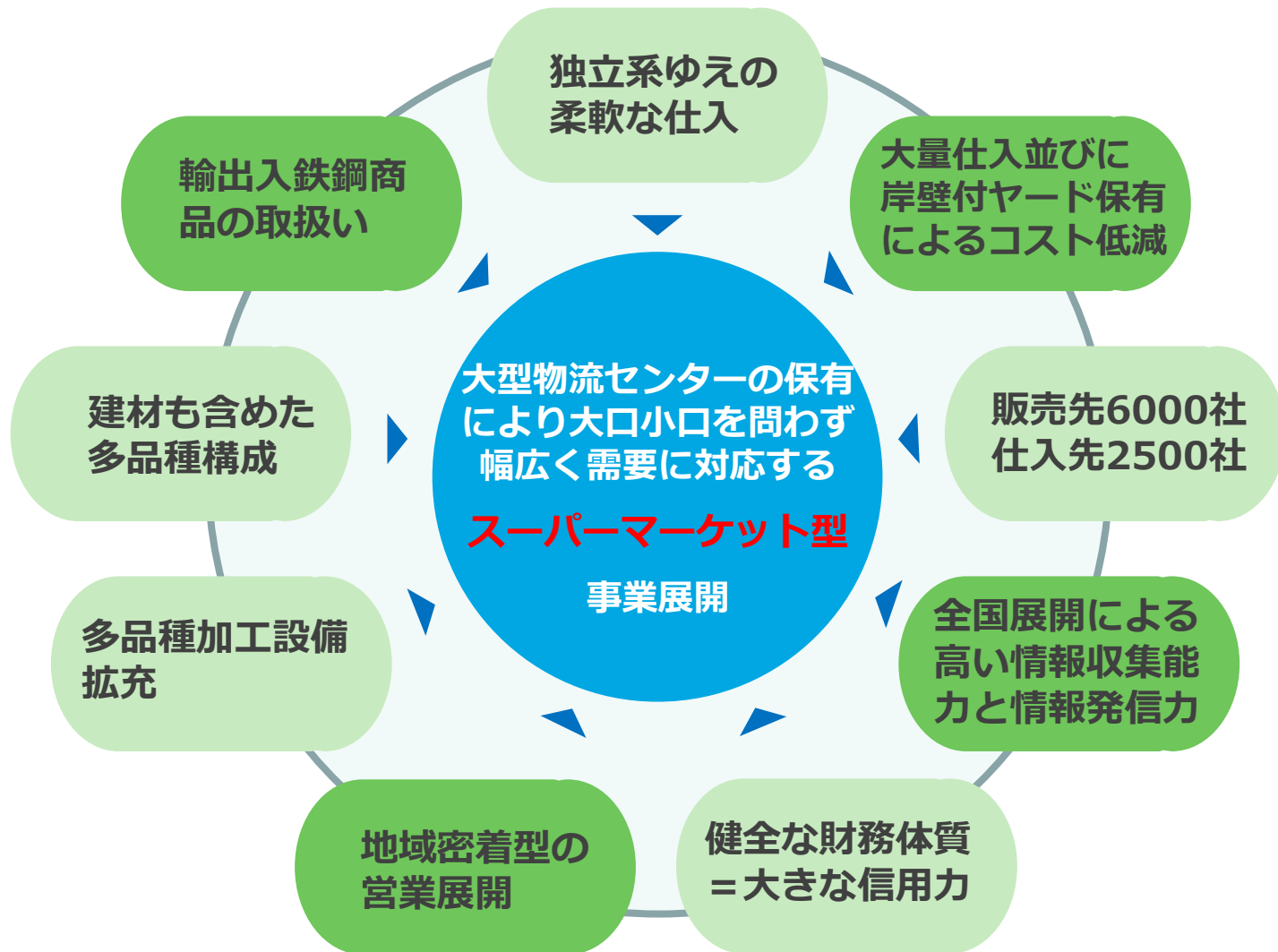
倉庫内部

当社所有の物流センター



子会社コイルセンター内部

「鉄と建材のスーパーマーケット」としての9つの強み



CONTENTS

I 会社概要

II 小野建の強み I ～積極的な販売エリア拡大とシェア向上～

III 小野建の強み II ～工事請負事業の拡大～

IV 設備投資による強みの増強 ～中長期に向けての成長戦略～

V 2022年3月期の見通し・株主還元・株価指標について

建材販売並びに工事請負形態

(2021年3月31日現在)

現場施工会社



鉄骨加工業者
(ファブリケーター)



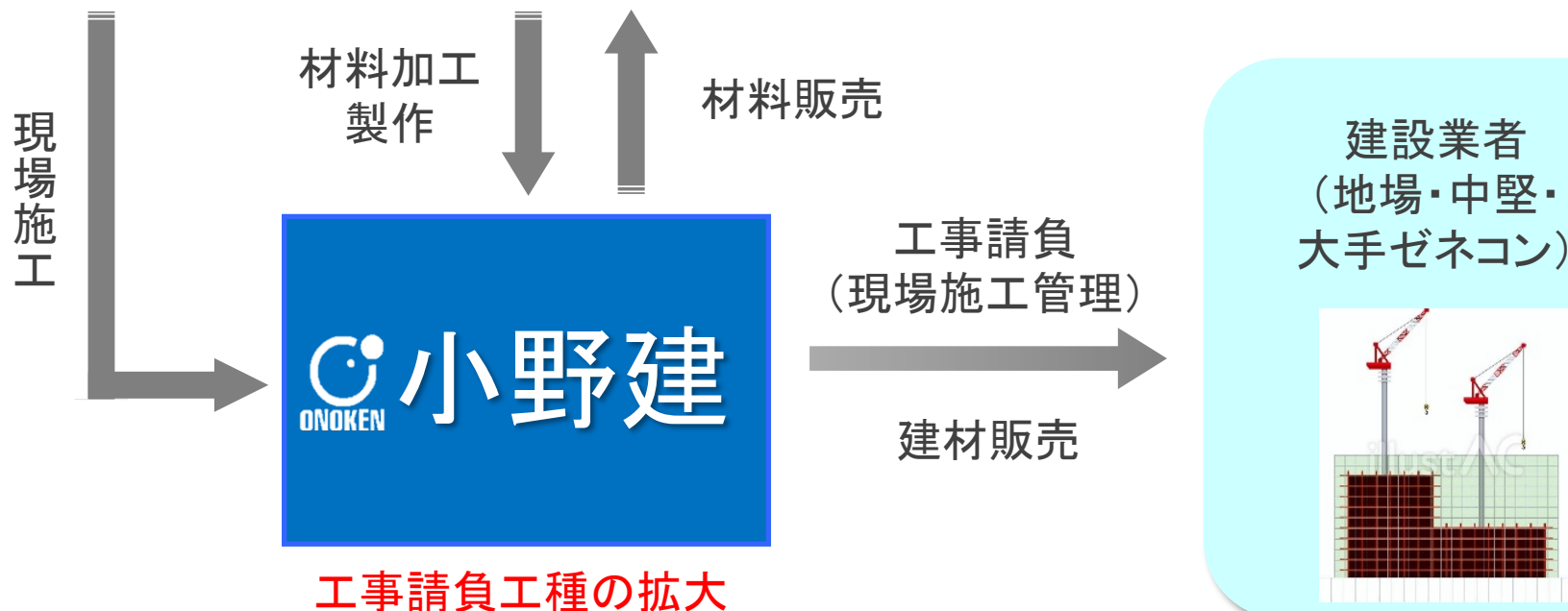
小野建の資格者数

一級建築士	2名
一級建築施工管理技士	46名
一級土木施工管理技士	23名
その他各資格者	28名

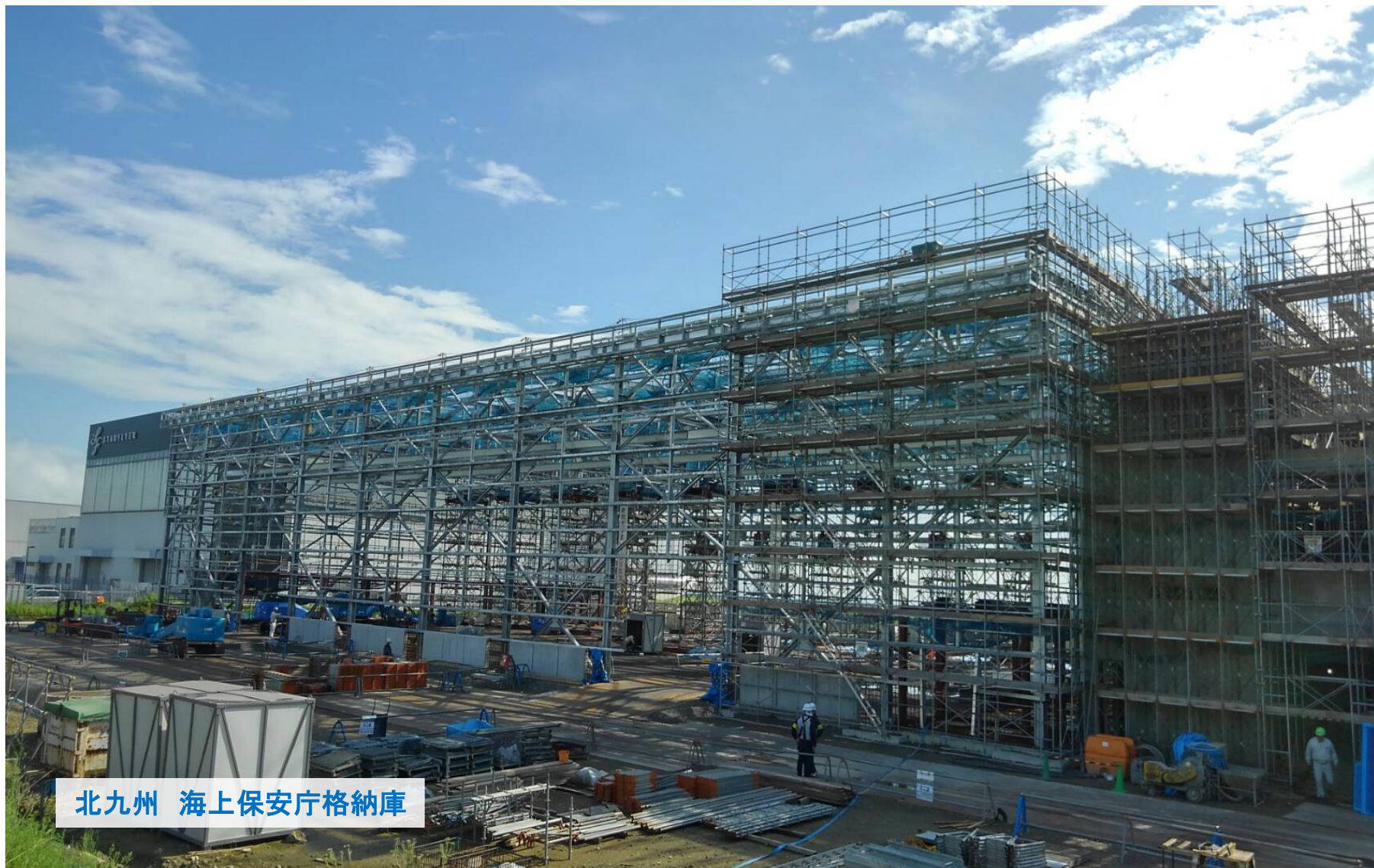
技術者の育成強化
(職人等)

鉄骨加工業者との
ネットワーク構築の推進

施工管理者の育成強化



鉄骨工事の様子



北九州 海上保安庁格納庫

鉄骨工事の様子



諫早駅 新駅舎

CONTENTS

I 会社概要

II 小野建の強み I ～積極的な販売エリア拡大とシェア向上～

III 小野建の強み II ～工事請負事業の拡大～

IV 設備投資による強みの増強 ～中長期に向けての成長戦略～

V 2022年3月期の見通し・株主還元・株価指標について

中長期に向けての成長戦略 I

● 積極的な設備投資

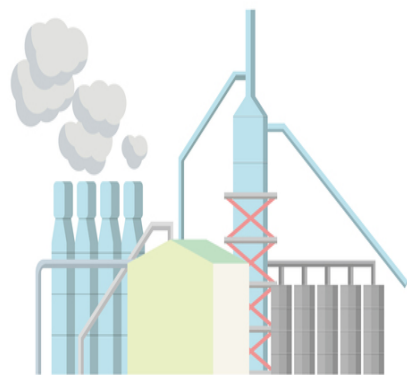
- 素材販売に加え、加工販売を増加させることにより付加価値を高め、鉄鋼市況の変動に左右されにくい安定した収益体制を目指す。
- ユーザーニーズに即応する体制を作るため、物流センターを増設し在庫及び加工設備の拡充を進める。
- 上記2点により、他社との差別化と収益率アップを図る。



収益向上を図り、全国トップを目指す

従来の鉄鋼商社の商売形態

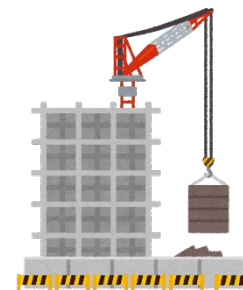
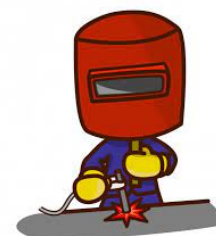
従来はメーカーから仕入れた鉄鋼商品を素材のまま販売



鉄鋼メーカー



鉄鋼商社

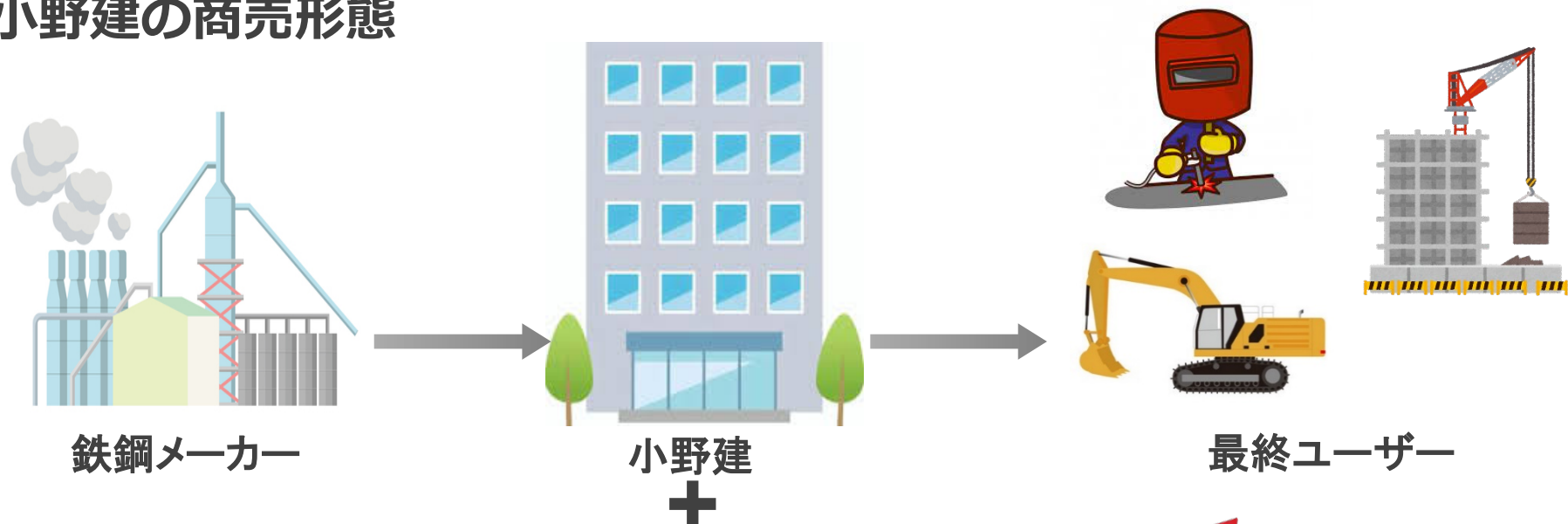


最終ユーザー

- ・鉄骨加工業者
(ファブリケーター)
- ・機械製造業者
- ・プラント、製缶業者

素材だけじゃなくて
簡単な加工は終わらせて
部品として持ってきて
もらいたいな

小野建の商売形態



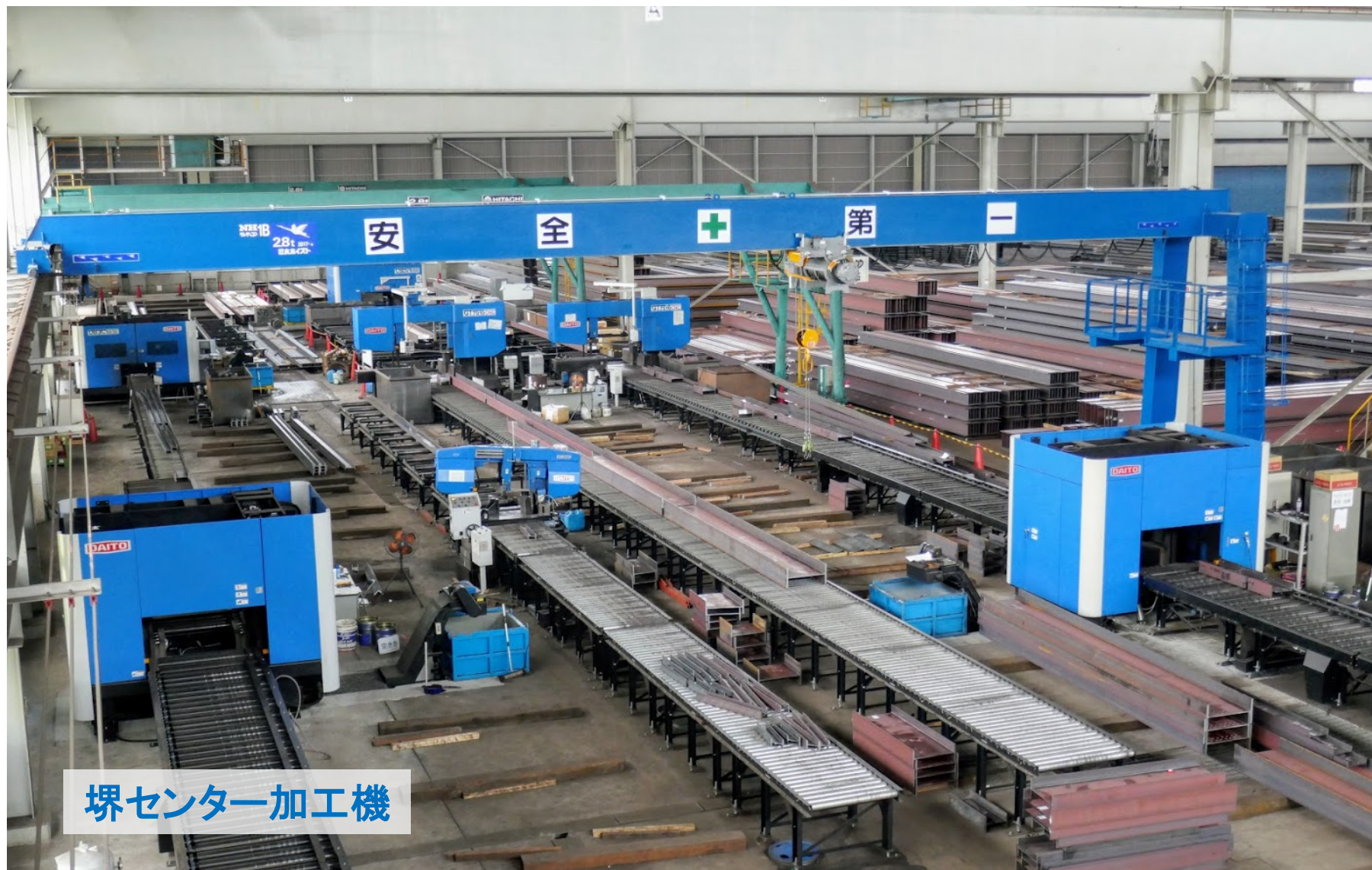
従来の素材販売に加え、一次加工した鉄鋼商品を納入

現在、加工品の販売比率は20%程度だが、

今後更に増やしていくことで付加価値の向上を目指す

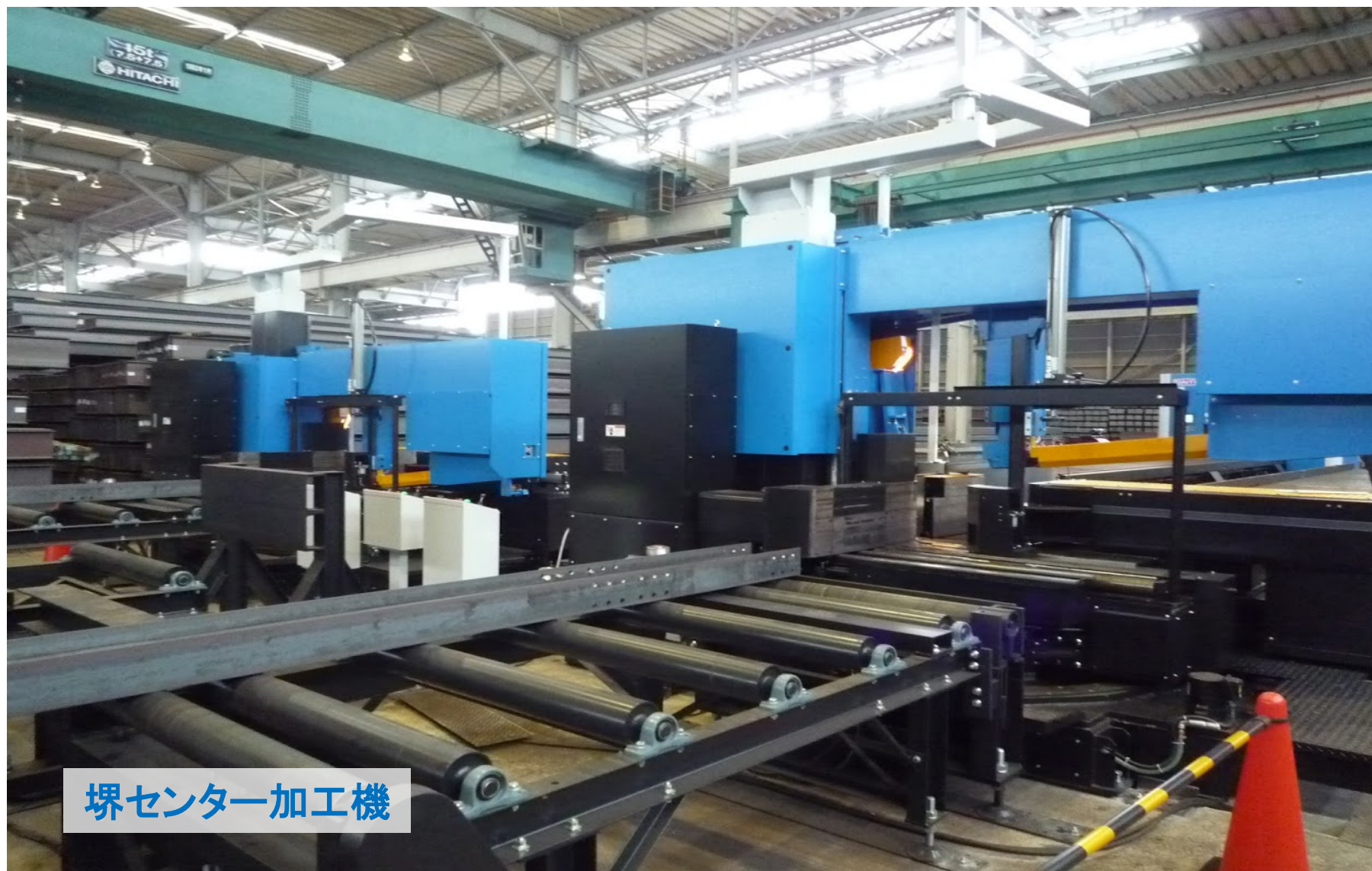
商社の形式に縛られることなく新しい商売形態を構築

当社所有の加工設備



堺センター加工機

当社所有の加工設備



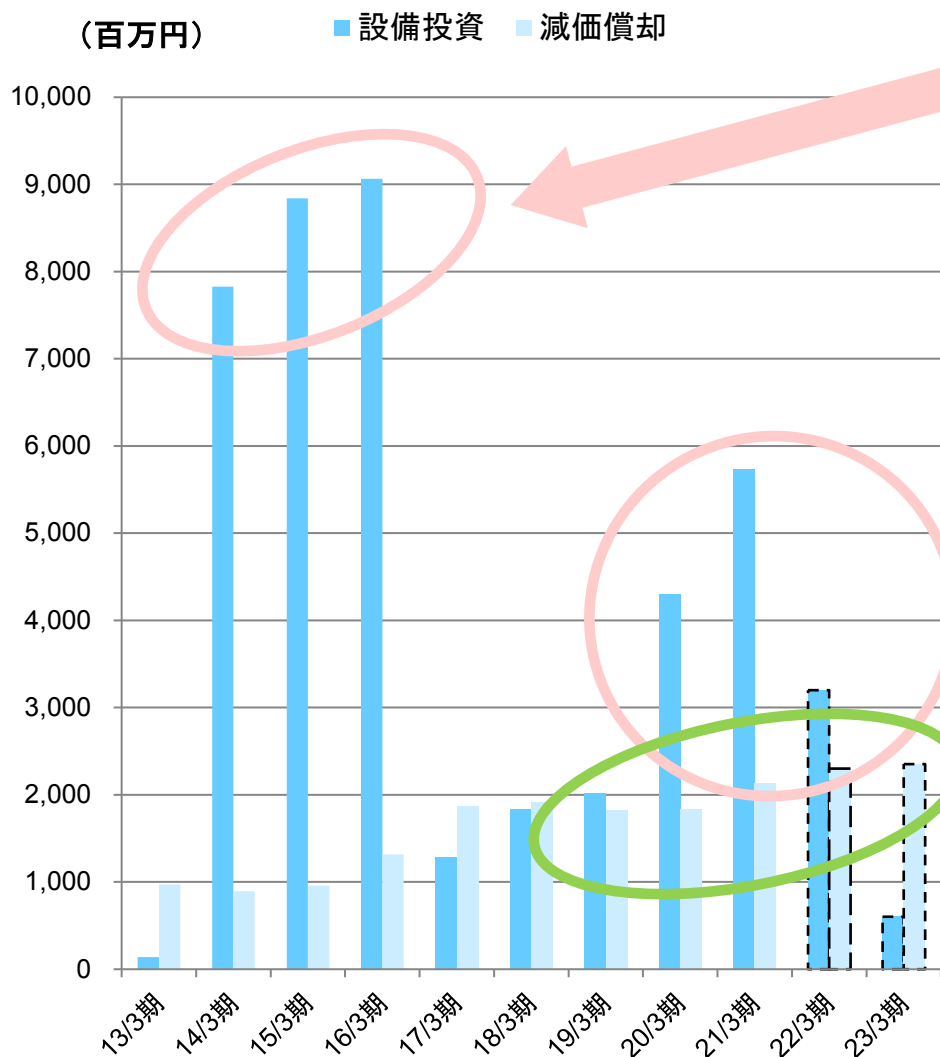
堺センター加工機

当社所有の加工設備



子会社レベラー

中長期に向けての成長戦略Ⅱ

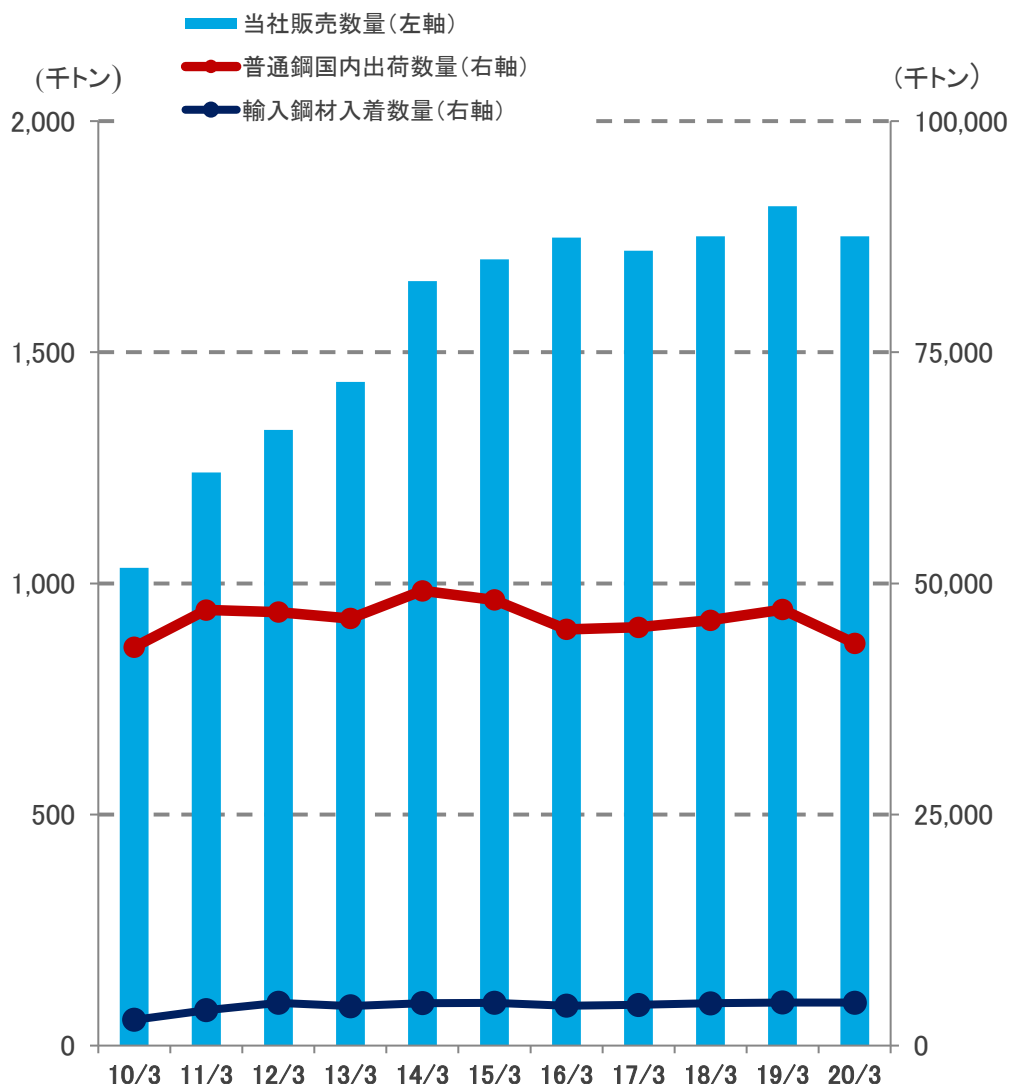


- ・今後10年を見据え、3年間で約260億円の設備投資を実施。
- ・16/3期で一段落したものの加工設備拡充のための拠点の新增設など、設備投資金額が増加傾向。
- ・減価償却費は若干増加傾向となる予定。



**加工設備の充実による
安定的な収益向上**

小野建の市場占有率



市場との比較

- 普通鋼の国内出荷数量は、近年横ばいの傾向にある中、当社の販売数量は**順調に増加**。
- 全国トップシェアながら**現在3%程度**。今後もエリアを拡大し、販売数量を大幅に伸ばす。

今後人口減少等により
市場の縮小が予想されるが、

強みを活かして勝ち残りへ

CONTENTS

I 会社概要

II 小野建の強み I ～積極的な販売エリア拡大とシェア向上～

III 小野建の強み II ～工事請負事業の拡大～

IV 設備投資による強みの増強 ～中長期に向けての成長戦略～

V 2022年3月期の見通し・株主還元・株価指標について

今期の業績予想

◆環境

- ・コロナ禍での経済活動は徐々に回復しており、需要の下落傾向は収まりつつある。ただし、今後もコロナの影響は予断を許さない。
- ・中国の景気回復並びにスクラップ等の原材料価格の高騰により、需要が盛り上がらない中でも鉄鋼市況は年度前半も上昇局面となっており、収益は拡大。

◆業績予想前提

- ・需要の回復は鈍く、鉄鋼商品販売数量は**伸び悩んでいる**。
- ・鉄鋼市況は前期後半から**強含みで推移**しており、上半期まで続く。
- ・工事請負事業の売上高は、新会計基準の適用に伴い完成工事基準から**進行基準に変更**。需要面においては、継続中の大型案件は順調に推移しているものの、足元の中・小型案件は**低調に推移**。ただし、年度後半から来年度にかけては**物流倉庫などの案件**が出る見込み。

株主還元・株価指標に関して

着実な利益＝着実な配当

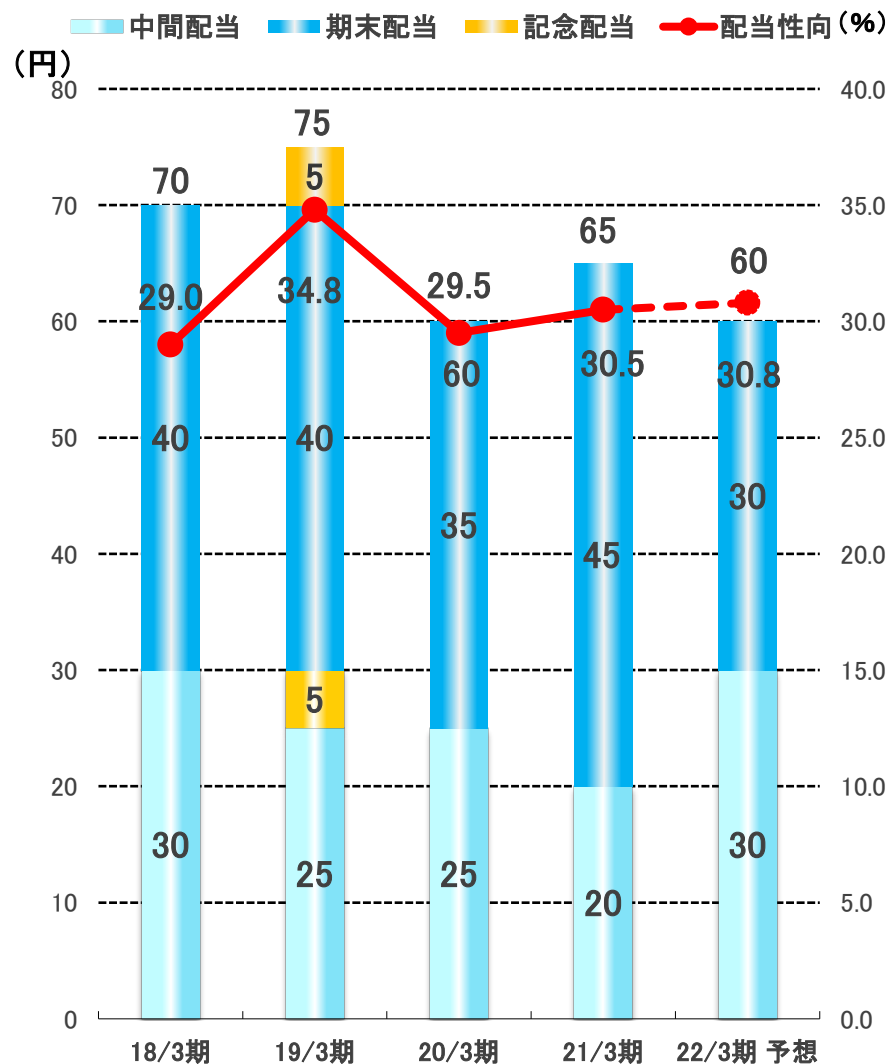
- 配当性向**30%**を原則に安定かつ高水準の利益還元を継続的に行う
- 中間配当制度を活用し、9月末日、3月末日の年2回、株主の皆様への配当を実施

実績PBR(純資産倍率) → **0.37倍**

予想PER(株価収益率) → **6.59倍**

予想配当利回り → **4.67%**

※数値は株価 1,285円(6/23終値)ベース



ESGの取り組み

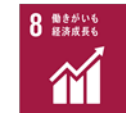


- 営業車のエコカー導入、倉庫の屋根にソーラーパネル設置によるCO₂排出量の削減



- 納品書電子化による紙の使用量削減

- 産休、育休、時短勤務等の利用によるワークライフバランスの充実



- 年1回の安全大会開催
- 社内相談窓口設置

- コンプライアンスマニュアルの策定
- 社内通報窓口設置



參考資料

ONOKEN

損益計算書（連結）

(百万円)

	19/3期 実績	20/3期 実績	21/3期 実績	前年同期比 増減率	22/3期 通期計画	前期比 増減率
売上高	232,164	229,290	202,825	△ 11.5 %	207,472	+ 2.3 %
売上原価	211,955	209,601	182,920	△ 12.7 %	187,306	+ 2.4 %
売上総利益	20,209	19,688	19,904	+ 1.1 %	20,166	+ 1.3 %
販売費及び一般管理費	13,576	13,328	13,392	+ 0.5 %	14,275	+ 6.6 %
営業利益	6,632	6,360	6,512	+ 2.4 %	5,891	△ 9.5 %
営業外収益	286	341	290	△ 15.0 %	235	△ 19.0 %
営業外費用	238	174	85	△ 51.1 %	30	△ 64.7 %
経常利益	6,680	6,527	6,717	+ 2.9 %	6,096	△ 9.3 %
特別利益	428	14	57	+ 307.1%	0	—
特別損失	3	117	27	△ 76.9 %	12	△ 55.6 %
税引前当期純利益	7,105	6,424	6,746	+ 5.0 %	6,096	△ 9.6 %
法人税等事業税	2,441	2,008	2,208	+ 10.0 %	1,891	△ 14.4 %
親会社株主当期純利益	4,664	4,416	4,508	+ 2.1 %	4,125	△ 8.5 %

※22/3期通期計画から新会計基準を適用の為、前期比増減率は参考値

損益計算書（連結） 補足事項

◆21/3期 売上高減少の主な要因

- ・ コロナ禍で需要が落ち込み販売数量が減少
- ・ 前年同期比で販売単価の下落

◆21/3期 営業利益増加の主な要因

- ・ 年度後半からのメーカー主導での鉄鋼商品市況の上昇により、在庫出荷分を中心とした利益率の上昇によるもの

※市況上昇の要因

国内需要は低調に推移しているが、中国をはじめ海外経済の回復傾向に伴い
国外需要は増加し、鉄鉱石、スクラップなどの原材料価格が急騰したため

◆22/3期 減益計画の主な要因

- ・ 在庫単価の上昇による利益率の低下
- ・ 工事請負事業における中・小型案件の減少と、需要減少に伴う競争激化による利益率の低下

貸借対照表（連結）

※主要項目のみ記載

（百万円）

	20/3期 実績	21/3期 実績	増減	増減率
流動資産	100,013	86,319	△ 13,694	△ 13.7 %
固定資産	53,584	57,773	+ 4,189	+ 7.8 %
資産合計	153,598	144,092	△ 9,506	△ 6.2 %
流動負債	75,628	62,305	△ 13,323	△ 17.6 %
固定負債	7,809	7,839	+ 30	+ 0.4 %
負債合計	83,437	70,145	△ 13,292	△ 15.9 %
純資産合計	70,160	68,531	+ 3,787	+ 5.4 %
負債・純資産合計	153,598	144,092	△ 9,506	△ 6.2 %

自己資本比率

45.7 %

51.2 %

貸借対照表（連結） 補足事項

◆売上債権、買掛債務の減少

- ・売上の減少によるもの

◆商品および製品の減少

- ・在庫単価の低下と需要見合いの数量減によるもの
今後は在庫単価の上昇と在庫数量の増加により増加傾向となる見込み

◆有形固定資産の増加

- ・南福岡営業所の新設および三重営業所・北陸営業所の拡大移転によるもの

◆前渡金・前受金の減少

- ・未成工事の減少によるもの

◆短期借入金の減少

- ・仕入債務および在庫商品の減少によるもの